

会議結果のお知らせ

1 開催した会議の名称

平成27年度 佐伯市バイオマス利活用推進協議会

2 開催日時

平成28年1月27日（水） 13時30分から15時00分

3 開催場所

佐伯市役所 本庁舎6階 第1委員会室

4 出席者

委員（15名中12名出席）

会長 井上勇 （佐伯市副市長）

副会長 戸高壽生 （佐伯広域森林組合 代表理事組合長）

平田誠 （大分大学工学部 応用科学科 准教授）

横松芳治 （大分県農林水産研究指導センター 水産研究部長）

山本公一郎 （大分県南部振興局 農山漁村振興部 林業・木材・椎茸班 課長補佐(総括)）

谷川憲一 （佐伯商工会議所 会頭）

麻生和宏 （九州電力株式会社 佐伯配電事業所 所長）

磯川りえこ （なのはな会 代表）

佐藤賢次 （アローファーム大分株式会社 代表取締役社長）

小川哲弘 （佐伯市農林水産部長）

山野内真人 （佐伯市市民生活部長）

田中眞二 （佐伯市地域振興部長）

事務局

（環境対策課）海部陽一、古賀慎司、久々宮克也、巽紀子

（商工振興課）渡辺周三、山本弘幸 （水産課）丸山純一 （下水道課）田村栄文

（清掃課）御手洗修 （体育保健課）須山禎宏

5 公開、非公開の別

公開

6 傍聴人数

0人

7 議題及び結果

①佐伯市のバイオマス政策について

報告。意見なし。

②バイオマス産業都市事業化プロジェクトの進捗状況について

報告。多数の意見を得た。

8 審議の内容

①佐伯市のバイオマス政策について

バイオマスタウンからバイオマス産業都市へ至った流れを説明。

②バイオマス産業都市事業化プロジェクトの進捗状況について

佐伯市がバイオマス産業都市として進めている2つの事業化プロジェクトの進捗状況について説明を行い、次のような意見を得た。

- ・九州一広い佐伯市の森林を有効な資源として生かすべき。里山の経済林だけでなく、森林の半分を占める荒れた広葉樹林の利用・更新もぜひ進めたい。
- ・ヤシ殻を燃料とする発電のみでは、バイオマスの地産地消になっていない。今後市内で発電所を実現して、現在全て市外に出ている木質燃料チップが、市内で活用されるのが一番よい。
- ・一定量の燃料の安定確保が企業誘致において一番大切。木質バイオマスについては、材の確保や燃料チップに加工する仕組み作りをしっかりと実現は難しいと思うので、真剣に考えてほしい。
- ・市内に木質バイオマス発電所ができれば、おそらく近隣施設の燃料が不足すると思う。長い目で見て、一つの自治体にとらわれず広域で考えて、燃料の過不足が起らないよう計画を練ることも必要になってくるのでは。
- ・FIT(再生可能エネルギーの固定価格買取)制度は、当初の買取期間以降の価格がどうなるか不明なところが問題。既設か新設かで買取価格に差があると、より高額で買い取れる方に材が流れ、経営が厳しくなる可能性がある。
- ・プロジェクトを実現するのに、地の利を利用したり企業とうまくタイアップしないと成功は厳しい。
- ・メタン発酵施設では燃料バイオマスへの異物混入を防ぐことが重要。消化液は液肥としてさばくのは難しいので処理方法は早めに決めておいた方がよい。
- ・廃油はBDF化をやめて、廃油ボイラーでそのまま燃料として使う方が効率的。

9 会議の資料名一覧

- ・平成27年度 佐伯市バイオマス利活用推進協議会
- ・先進地視察報告
- ・佐伯市バイオマスタウン構想
- ・佐伯市バイオマス産業都市構想

10 問い合わせ先

担当課 市民生活部 環境対策課 環境企画係

電話番号 22 - 3995 内線 399